



MUSASHINO Vol.119 *for* TOMORROW

巻頭

ヨーロッパに里帰りした 印象派の絵画

熊澤 弘 (武蔵野音楽大学講師・美術史家)

特別座談会 第2部

江古田新キャンパス 実現までの道のり

2017年度より 新しい教育体制が始まります



表紙：武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル演奏会
東京芸術劇場 コンサートホール (2016年7月15日)

October 2016
vol.119

ヨーロッパに里帰りした 印象派の絵画

熊澤 弘
(武蔵野音楽大学講師・美術史家)

「日本が愛した印象派」展
をめぐって——



熊澤 弘 *Hiroshi Kumazawa*

1970年生まれ。1997年東京藝術大学美術研究科修士課程修了。2003年より東京藝術大学美術館に勤務。「歌川広重〈名所江戸百景〉のすべて」展(2007年)、「線の巨匠たち——アムステルダム歴史博物館所蔵素描・版画展」(2008年)等の国内・国際展を担当。2012年より武蔵野音楽大学音楽環境運営学科講師として勤務しつつ、「日本が愛した印象派」展(2015年、ドイツ連邦共和国美術展示館)等の国内外の美術展覧会を監修。著書に『レンブラント 光と影のリアリティ』(角川書店 2011年)他。専門はオランダ美術を中心とした西洋美術史、博物館学。

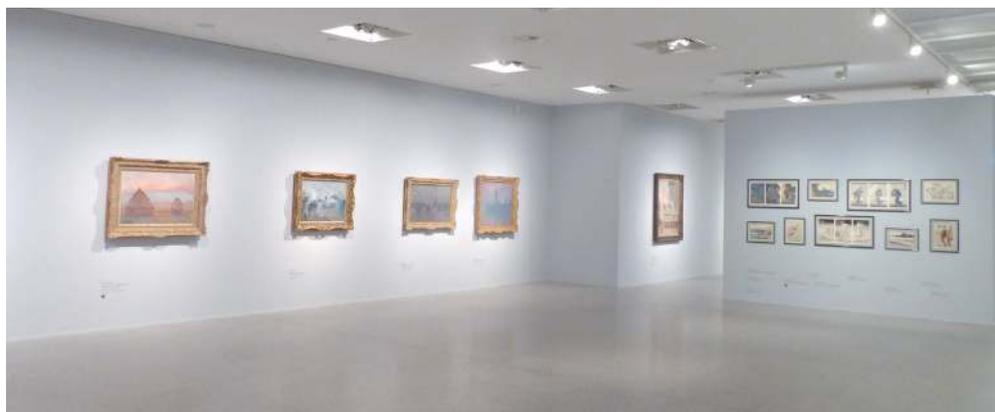


武蔵野音楽大学は、「音楽芸術の研鑽」と「人間形成」を教育の基本方針とし、音楽の専門教育と同時に、広い視野を持ち、総合的な考察をするために必要な教養教育にも力を入れています。今回は、音楽と対照的に理解されることの多い「美術」に関するエッセーをお届けします。音楽と美術はしばしば「時間芸術」「空間芸術」と区別されますが、印象派の画家たちと交流のあったドビュッシーや音楽的要素を抽象的に表そうとしたパウル・クレーのように、この二つの芸術には親和性もあります。ここでは、19世紀最大の芸術革新である印象派運動と、日本人との出会いについてご紹介します。

2015年： 日本からドイツに 「逆輸入」された印象派

展覧会オープン前日。あらゆる準備作業が終わった展示室を巡回しながら、私は不思議な感覚に襲われていた。展覧会をつくる仕事にはいくつも関わってきたが、今回の仕上がりは独特である。何故なら、ここに展示されているのは、「日本から」輸送されてきた「フランス」印象派の絵画、そして展示場所は、「ドイツ」の美術館であるからだ。

2015年の秋、ドイツ・ボンにある「ドイツ連邦共和国美術展示館」にて



▲「日本が愛した印象派」展会場風景(2015年10月、上写真も同じ)

「日本が愛した印象派——モネからルノワールまで」展が開催された。日本国内の美術館やコレクターが所蔵しているフランス印象派絵画の名作群を、ヨーロッパではじめて紹介する稀有な企画であった。ヨーロッパから見たら極東に位置する日本に、極めて質の高い印象派絵画がまとまっていることに、現地の鑑賞者は驚きの声を上げた。

なぜ日本にこれほどの印象派絵画があるのだろうか。これは、19世紀から20世紀の日本における西洋文化受容の結果なのだ。

1874年：印象派の誕生

美術に関心を持っていない人でも、「印象派」という単語にはなじみがあるだろう。この呼称は、1874年のパリ、第1回印象派展に出品された、クロード・モネ《印象、日の出》に対する批評が出発点となっている。極めて曖昧に見える筆遣いに対し、新聞記者が、「印象」が描かれているだけだ、と揶揄したのだ。しかし、色彩を分解し、光のうつろいを描き出すこの描法は、まさしく新たな表現であった。

それ以降、「印象派」と呼ばれるようになったモネをはじめとする画家たちは、市民の近代的な生活を題材とする新たな絵画を描くようになった。斬新な視点と、明るい色彩と分割的な筆遣いによる描写は、きわめて「近代的」なものであり、やがてヨーロッパ画壇を席卷する強い影響力を持ったのである。

印象派がブームになっていた時期は、日本は明治という新たな時代を迎えていた。これらの絵画は、どのような経緯をたどって日本にやってきたのだろうか。



▲ クロード・モネ《印象、日の出》(1872年、マルモッタン美術館)

日本と西洋絵画との出会い

日本と西洋絵画との出会いは、安土桃山時代にまでさかのぼる。16世紀中頃、日本に到着したポルトガル人たちが持っていた「聖画」、すなわちキリスト教図像が描かれた絵画が、日本人にとっての最初の西洋絵画であった。その後、鎖国の敷かれた江戸時代でも、唯一国交のあったオランダから油彩画が送られたことが知られている。しかし、これらの接触は限定的であった。西洋絵画が日本に本格的にやってきたと言えるのは、幕末の開国、そして明治時代の到来まで待たねばならない。

明治時代： 本格的な「輸入」のはじまり

明治時代は、日本と欧米の間で美術品取引が拡大した時代であった。欧米諸国では以前から、漆塗りの工芸品や陶磁器が珍重されていたが、

開国以降その流通量は一気に増え、「日本趣味」(ジャポニスム)のブームによる美術工芸品輸出は活発化していた。

この一方で、西洋美術作品も、日本に徐々にもたらされるようになった。当初は、幕末の留学生たちが持ち帰ったわずかな資料のみであったが、19世紀末になると、欧米への留学者や現地在住者が増え、さらには林忠正のように、パリで画商として活動する者も登場したことで、日欧の美術品のやり取りは一層豊かになった。その過程で、西洋美術を収集しようとする日本人が登場するのである。

20世紀初頭： 西洋美術コレクターと 美術館への夢

20世紀に入ると、日本に西洋絵画ブームというべき大量流入が起きた。経済状況の進展、為替レートの変化とともに、美術品を所有することのできる資本家が成長したのである。



▲ 松方幸次郎

このような環境のなか、1920年代前後に、西洋絵画を大量に収集するコレクターが登場するようになった。そのなかでも特に注目すべきなのが、倉敷の実業家、大原孫三郎と、神戸の川崎造船（当時）の社長、松方幸次郎である。

大原は、彼が支援していた日本人画家、児島虎次郎の勧めに従って西洋絵画の収集を始めた。大原は病院や学校運営をはじめとする社会貢献活動に強い関心があった人で、「個人としての願いではなく、日本の芸術界のため」という理由から西洋絵画収集を進めていった。大原のコレクションには、16世紀マニエリスムの巨匠エル・グレコの《受胎告知》や、クロード・モネ《睡蓮》などの傑作も含まれている。そして1930年、大原美術館が開館した。それは文字通りの西洋美術の殿堂であった。

西洋美術の殿堂をつくる、という思いを、松方幸次郎も強く持ち続けていた。第一次世界大戦の特需景気によって得た資金を元に、松方は猛烈な勢いで西洋美術作品を購入した。彼は、印象派、ポスト印象派のみならず、同時代美術から、ヨーロッパで収集した浮世絵を含む、きわめて幅広いコレクションを作り上げていった。

松方がこれほどの熱意をもってコレクションをしていったのは、自らの

趣味のためだけではなく。彼は、日本に美術館を作り、日本人に、そして若い画家たちに本場の西洋美術を見せることを目指していたのである。事実松方は、「共楽美術館」と名付けた美術館建設を実行すべく、設計のみならず用地買収までも行っていた。

しかし彼の理想とする美術館建設は実現しなかった。川崎造船の経営悪化による資産売却、ロンドンの保管倉庫の焼失、さらに大戦中のフランスでは敵国財産として差し押さえられるなど、松方コレクションはばらばらになってしまう。終戦後、差し押さえられていたコレクションの一部が外交交渉の結果返還され、これが、現在の国立西洋美術館コレクションの原点となっている。

第2次世界大戦以降： 企業、個人、 そして美術館のコレクション

第2次世界大戦から復興する過程で、日本での印象派コレクションは再び拡大していった。戦後復興期になると、ブリヂストン美術館の石橋コレクションを筆頭に、企業や個人のコレクターが登場するようになった。1970年代以降になると、公立の美術館でも、規模は小さいが西洋美術収集が始まった。その結果、ポーラ美術館（神奈川・箱根）、ひろしま美術館、東京富士美術館（東京・八王子）、吉野石膏コレクションをはじめ、世界的に見ても重要なコレクションが確立したのである。1980年代のバブル経済の時代には、ルノワールやゴッホなどの印象派を高額で入手したコレクターが話題になるほどであった。その後の経済低迷でこの活動は縮小したが、印象派を集める重要なコレクターは現在でも活動を続けている。

ヨーロッパに発見された 「日本の愛した印象派」

冒頭の話題に戻ろう。ボンでの「ドイツ連邦共和国美術展示館」で行われた「日本が愛した印象派」展は、日本における印象派収集史を、実際に収集された絵画群を展示しながらめぐるといって意欲的な企画であった。印象派の主要なものは欧米諸国にあると考える「本場」の人々にとっては、極東に位置する日本に、質量ともに豊かな印象派絵画が存在すること自体が驚きであるからだ。

そしてあるドイツ人の美術関係者が、日本にある様々な印象派の優品に触れる過程で、「日本にある印象派展」をヨーロッパで実施するアイデアを着想した。大原、松方をはじめとする魅力的なコレクターの存在は当然のことながら、いずれの美術館にも欧米の美術館に引けを取らない良質な印象派が存在している。そして、複数の館が所蔵する印象派絵画群をまとめたら、極めて魅力的な「作品リスト」が出来上がるからだ。

とはいえ、実際この展覧会が形になるまでには様々なハードルがあった。各々の美術館側にとって、自館の印象派は、コレクションの「顔」である。この企画に協力すれば、自館の展示室が手薄になってしまう、という現実的な事情があった。それに、我が国では、国内の美術作品をまとめて欧米に紹介する場合、伝統的な美術工芸が主題として選ばれることが多く、明治以降に誕生した日本画・洋画でさえ、まとめて紹介される機会は稀であったからだ。

展覧会が実現するまで

この状況を踏まえ、展覧会を主催



▲ ギャラリー・ミレー（富山）での作業風景



▲ 作品クレート輸送風景

するドイツ側のキュレーターたちと、印象派研究の権威を含む日本の監修者たちによるチームが結成され、私はこのチームの一員として準備作業に当たることとなった。日独両国のチームは、展覧会構成の検討、作品選定、各所蔵者への出品交渉を合同で行った。そして多くの美術館、所蔵者の方々がこの企画趣旨をご理解下さったおかげで、重要な作品ばかりが展示リストに並んだのである。

とはいえ、作品を実際に日本からボンにまで運び展示するためには、膨大な手続きが必要となる。作品借用のための条件の調整、借用契約、保険契約等の諸手続きはもちろん、作品を輸送するための諸作業も必要だ。作品点検のための書類作成から始まり、輸送日程調整、作品輸送用の木箱（クレート）作成、航空便の調整、そして、作品搬送および現地での点検に立ち会う各館の学芸員（クーリエ）のスケジュール調整など、準備作業は果てしなく続いた。この調整作業には、日独の文化の違いから生じる様々な「行き違い」を修正することも含まれていた。

この作業を経てドイツの美術館に到着した作品は、日独のキュレーター、修復家の立ち合いのもと丁寧に状態確認され、一点一点慎重に展

示されていった。この結果として、近代フランス絵画77点に、彫刻10点、日本近代洋画19点、さらにフランス、ジヴェルニーにあるモネ旧蔵浮世絵19点や書籍等の資料が展示されたのである。日独双方の関係者の努力が結実した瞬間であった。

展示作業をしながら、私は奇妙な感覚を覚えた。ここに展示されている作品群は、生まれはフランスではあるが、普段は日本で展示されているものだ。それが、日本の美術館という現在の文脈から離れて、ドイツといういつもとは異なる「場」に展示されたことで、見慣れた作品を、全く

新鮮な視点から見直すことが可能となった。

美術作品にとって、その視覚的情報、すなわち「見え方」が重要だが、鑑賞するときには、作品に付随する情報（展示や所有者記録、研究・言説の歴史等）、そして鑑賞者自身の経験に左右される。これらの情報は、作品の価値すら変えてしまうのだ。ドイツで展示された作品たちは、100年以上前にフランスで生まれ、日本人たちにもたらされ、ドイツで再発見されるという歴史を積み重ねた。「日本人がこれほどまでに印象派を愛したのだ」という思いとともに。



▲ ドイツでの作品点検風景



LOOK at
REPORT 10 TOMORROW
江古田新キャンパスプロジェクト

特別座談会
第2部

江古田新キャンパス実現までの道のり

前号に引き続き、福井直昭本学副学長と、新キャンパスの設計・施工を担当した日本を代表するスーパーゼネコン、株式会社大林組の5人のスペシャリストによる特別座談会をお届けします。新キャンパスの来春オープンに向け、既に1500時間を超える会議を重ねている本学と大林組。今回は約38万枚使用される外装タイル、ブラームスホールの音響設

計・内装デザイン、ベートーヴェンホールの改修等にスポットを当てていますが、皆さんの発言から、改めて本プロジェクトが事前の周な準備と、大勢の関係者による尽力の結晶であることがうかがい知れます。
(2016年5月19日実施)

味わい深い オーダーメイドの 外装タイル

福井 新キャンパスの外観を彩る特徴的な外装タイルについて、お願いします。

安藤 先般、副学長にも製品の確認検査のために、愛知県半田市のタイル製造工場まで、ご一緒頂きました。当初は3種類のタイルをプレゼン致しましたが、やはり50年、100年使う建物ですから、風雪に耐え得る、見ていて飽きの来ないような外装材をとということで、最終的にはこのダークグレーのタイルを強くお勧めし、ご了承頂きました。「ダークグレー」と申しましたが、これは自然な斑まだらができる「還元焼成」という焼き方の特注タイルです。

福井 炎の当たり方・酸素の有無に

より、銀色っぽくなる・茶色っぽくなる・黒っぽくなる所がランダムに表現されますね。

安藤 しかも太陽光線が当たると銀色の所がキラッと光ったり、茶色っぽい所は光らなかつたり、朝・昼・晩で見え方が違う。天候によっても違うし、季節でも違う。つまり同じ建物でも、見る度に表情が異なるタイルです。

福井 見る距離によっても質感、色合いが違いますよね。そういう味わい深さはオーダーメイドならではの。

安藤 タイルの厚みも、基本は15mmなのですが、20mmというタイルも造って、それらを10%くらい混ぜる。そうすることで所々出っ張り、天気

安藤雅敏 Masatoshi Ando

株式会社大林組
本社 設計本部 建築設計第二部 課長



安藤 雅敏

▲ 外装タイルのサンプルを手にする安藤氏



▲ 1200℃前後で還元焼成される外装タイル



▲ キャンパス模型 (南東部)



▲ 模型と同箇所のキャンパス南東部 (平成28年7月30日)

の良い日には影が見え、曇っている時はフラットに見えます。

山本 多少の凹凸を加えるというのは、昔のレンガ積みの技法の一種です。

福井 確認検査前は、その5mm出っ張るものを、20枚に1枚、つまり5%の割合でご提案されていましたね。でも工場で実際に見てみると、5%だと少なすぎて殆ど認識出来ず、むしろその出っ張りが施工ミスに見えるのではないかということになり(笑)、10%という結論に至ったわけです。

安藤 その結果、本当は全部焼き終わっていたのですが、現在、工場では追加分を一生懸命焼いています(笑)。

福井 使うのはトータルで38万枚。1枚1枚色合いの違うタイルをうまく配合すると、全体的に微妙な色合い、グラデーションが出て趣があります。微妙な色彩の変化、グラデーションに対する楽しみは、まさに音楽と通じるものです。

安藤 今回のタイルメーカーさんが副学長の来訪を、「検査で施主様がいらっしゃることは時々あるのですが、こんなに質問されたのは長い間で初めてです」と喜んでいました(笑)。

福井 せっかく遠くから来た以上は、きっちり仕事しますよ(笑)。いえいえ、興味深い経験をさせていただきました。ところで外装タイルとは別に、サンクンガーデン(中庭式広場)の床にもタイルを使用していますね。

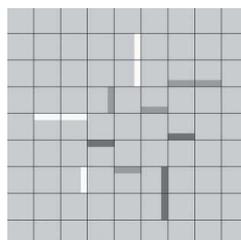
安藤 こちらもある意図を持ってデザインしています。床タイルは無彩色で構成しているのですが、「人と自然が交

わるキャンパスの中心」を表現できるよう、そこに加わる濃さの異なる3色でつくったアクセントのパターンを考えました。このアクセントのカタチは、整形な広場に「柔らかさ」を与えるため木陰をモチーフとしましたが、広場に実際に植える樹木がもたらす影とのバランスを考えて配置しています。

福井 そのアクセントの配色パターンにも含意があるとか。

安藤 配色パターンは「交流」を意図しています。広場を囲む図書館・博物館・キャンパスレストランの床に採用した各々別のアクセントカラーが徐々に外側に染み出し、広場中央でその3色が均等に交わっていくイメージです。「活気あるキャンパス」や「内と外との連続性」を表現しています。

福井 今ちょうどお話が出た、サン



▲ サンクンガーデン床タイルのアクセントの1例



福井直昭 *Naoaki Fukui*

武蔵野音楽大学 副学長
企画部長・教授(ピアノ)

クンガーデンの植栽についてお願いします。

小林 広場に木を植えることに関して、我々のチーム内でも色々な議論がありました。木がない方がフレキシブルに使えるのではないとか、学園祭時に模擬店をきれいに並べられるのではないとか。しかし緑の見た目の爽やかさや、夏の暑い日に木陰で過ごす気持ちよさなど、メリットの方が多いと考えました。

山本 選んだのは桂の木ですが、その葉は小さめで、明るく透けるような緑色。光がシャワーのように降り注ぎます。

意欲的な ブラムスホールの デザイン

福井 新キャンパスの目玉の一つ、ブラムスホールについて。音響設計には大林組技術研究所の調査に加え、世界的な建築音響コンサルタントの永田音響設計に監修をお願いしました。

小林 大面積のホールの場合、空間のボリュームをとって残響時間を長くすることが求められます。今回、キャンパス北側にブラムスホールと合奏棟を配置していますが、実は北側は道路を1本挟むと低層の住居



▲ ブラムスホール北西側外観
(平成28年7月30日)

地域で日影規制が大変厳しく、キャンパス全体は基本20mの高さ制限なのに、このエリアは14mの高さしか取れません。理想的な高さを確保するため、ブラムスホールと合奏棟北側上階のオーケストラホールでは、屋根・天井を斜めにする事で、容積を稼ぐことにしました。音響検討を最後の最後まで詰めた結論です。

福井 法的にも音響的にもクリアできたわけですね。ホールのボリュームが決まった上での、特徴的な内装デザインについては。

小林 現代的な雰囲気を醸し出すよう、幾つもスケッチを描いてデザイ



小林靖樹 Nobuki Kobayashi

株式会社大林組
本社 設計本部 建築設計第二部 担当課長



▲ 平成28年4月21日
読売新聞(朝刊)に
掲載された記事

ンの方向性を決めながら、同時並行で音響的な検討を加えるということを繰り返したり、最上な形を探りました。残響時間と同時に、初期の反射音をどれだけ多方向から豊富に反射させるか、というのが音響上の大きなテーマでした。ステージから客席に直接届く直達音、その後、壁・天井に跳ね返ってくる二次反射音、三次反射音くらいまでが、各座席において均等に、きれいに聴こえるようにバランスを見るわけです。全ての壁の凹凸を三次元モデルに組み、データを永田音響に送って音響シミュレーションをして返してもらい、そのトライ＆エラーを何十回も繰り返しながら壁の出入りを決めました。さらに壁面の素材は、音響的に石がメインのベートヴェンホール、木がメインのバッハザールを念頭に、それらの伝統的な素材に加え、タイル、ガラスという異なる音響特性をもつ素材を、音の跳ね返りのバランスを見ながら分散させていきました。

福井 読売新聞でも紹介されたのですが、ブラムスホールの内装に使われる石は、宇都宮産の大谷石ですが。柔らかくて加工しやすく、独特な風合いがあり音響効果に優れた素

材ということで、大谷石の新たな活用法として注目を浴びるかもしれません。

創意工夫が凝らされた 様々な学修空間

福井 図書館は大学にとって「知の集積の場」であり、「学びの場」の中心ですが、新キャンパスではそれに相応しい配置がされています。

小林 今回は他の施設との関係で1フロアに大きな平面を取りにくかったこともあり、地下1階から地上2階までの3層構造で中央棟に集約しました。賑やかなサンクンガーデンに面した地下1階には、学生同士話したり議論したりというような使い方が想定されるラーニングコモンスを設置。1階にはメインとなるゲートと事務関係。2階は静けさが求められる閲覧室、AVコーナーです。3層のメリットを活かし、下から上に行くにしたがって動的な空間から静的な空間にするというプランです。

福井 性格の異なる各フロアにおいて、学生はある時は一人で、またある時はグループで、好みの学修スタイルを選んで欲しいと思います。ではもう一方の知的空間、日本最大のコレクション数を誇る楽器博物館に関しては。

小林 一般的な博物館は、順路に従って回ると全ての展示を見終わるという「一筆書きスタイル」をとります。一方で、研究目的の方々などには「この分野のこの展示品を見たい」というスポット的なニーズもあります。そこで、今回は西洋(鍵盤)・西洋(管弦打)・邦楽器・民族楽器の4つの部屋を設け、各部屋にそれぞれ直接アクセスできるような動線計画を立てました。

福井 続いてレッスン室と練習室ですが、これらには「ミニマムスケールの追求」というコンセプトが謳われ

ています。

小林 各棟は構造的には切れているため、各々の構造形式をどうするか検討を重ねました。事務や教室がメインの南棟は、遮音性能が一番要求されない建物ですが、広さを確保するために柱と柱のスパンを長くしなければいけないので、S(鉄骨)造が最適だと。その他の棟は遮音性能を高めるためにコンクリート系の建物で、となりました。したがってレッスン・練習室が集中して配置される東棟はRC(鉄筋コンクリート)造にしていますが、そこに「壁式」という構造を使うことで、柱型などの余計な出っ張りがないため、部屋の有効面積が広がられています。

福井 レッスン室の配置は特徴的ですね。

山本 はい。部屋の数がかなり多くて、普通に廊下の両側に整然と並べたらすごい長さを要してしまいます。そこで何とか良い環境の中でレッスン室を造り込むために、大阪御堂筋流三列駐車みたいに見えますけども、このハーモニカプランを採用しました。この方式だと廊下の長さはそれ程要らないし、採光にも優れています。最近、病院などによく取り入れられている方式です。

福井 廊下のデザインにも、様々な工夫が凝らされています。

小林 ただ単に部屋・扉が並んでいるだけでは、いかにも殺風景です。どうせなら廊下も楽しい共有スペースとしたいという思いがありました。そこで先程のハーモニカプランによりできた溜りのスペースに外光を入

れ、レッスンの合間に会話をしたり、コンセントレーションを高められるような空間として設計しました。また、フラッターエコー(壁と壁の間を何回も音が反射しその音が断続的に聞こえる現象)予防のために、ホール、レッスン室、練習室の壁・天井には平行な面を造らないように設計していますが、そうした変形デザインを活かして、ちょっと変わった、あまり見たことのないような廊下を造っています。また、南棟教室周りの廊下は広めにし、なおかつ壁をへこませることで、コミュニケーションの場として人が溜まれるような空間を設けています。

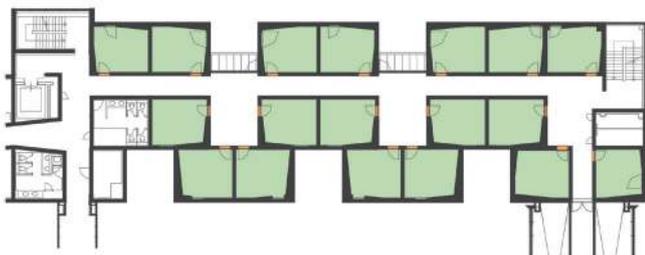
福井 レッスン・練習室に関しては、配置や採光・音響などの室内機能を追求していった結果、廊下などの共用部分に特徴的なデザインがいわば“自然と”現れたわけで、前号の外観デザインの話に通じるところがあります。まさに「形態は機能に従う」ですね。

難関の ベートーヴェンホール 改修と施工現場

福井 「記憶の継承」の象徴、ベートーヴェンホールの保存・改修についてお願いします。

小川 ホールを残す上での一番の課題は、建物を現行法規に合わせることでした。主に耐震性能に関してですが、中でも最難問はホール天井で、この規模の天井は大きな地震が来ても落ちないように耐震天井にしなければなりません。実際、東日本大震

災や熊本地震でもホールや体育館の天井が落下しています。天井や壁の構成・材料を入念に調査した後の改修計画の中で、「評



▲ハーモニカプランによる東棟レッスン室の配置



山本 朋生 Tomoo Yamamoto

株式会社大林組
本社 設計本部 本部長室 室長

価の高い当ホールの音響は勿論変えたくない。そして何より先生方、卒業生の皆さんの記憶にある姿をそのまま残すことが、歴史の継承につながるのではないかと感じました。それでは、どうやって天井を残したまま地震対策を施すか——結果的に採用したのは、天井が壊れたらネットで受ける方式です。

福井 でもそれだけでは、見た目上よろしくない。

小川 そうです。したがって天井とネットに力学的・音響的に満足した材料を塗り込んで、両者を接着すると



小川 朗 Akira Ogawa

株式会社大林組
本社 設計本部 リニューアル設計部 担当課長



▲ 東側より望むキャンパス全景 (平成28年7月23日)

いう方法を考えました。そうすれば、音や見た目は今までと変わらず、落下防止ができます。実はこの改修方法は文化財などにも利用できるのではないかと、現在、特許出願をしているところです。

福井 新しい方法がただけに、音響シミュレーションや審査機関の評定をいただく等、大変でした。では最後に、施工全体に関する話をお願い致します。

今井 今回は建物の周りが住宅街で、住まわれている方も1日中お宅にいる方が多い。低騒音・低振動重機を使用したとはいえ、解体工事の際は騒音や埃に対して苦情がいくつか寄せ

られました。ただその後新築工事に入ってから、苦情・クレームはゼロです。勿論近隣の皆様のご理解と、武蔵野様と皆様との長年のお付き合いの賜物だと思います。あと、敷地にほとんど目一杯これだけの建物が建つわけですから、一番効率のいい動き方ができるような仮設計画を立てるのに苦労しました。既存計画はありましたが、工事車両の動線に関してスタッフとかなり見直しました。ゲート利用の時間調整をしながら、道路で待機する車がないように、今現在は警備員7名で誘動しています。

福井 建築工事現場にはスローガンがあるとか。

今井 「前工程に感謝、後工程に思いやり」を掲げています。40種類くらいの専門業者が順番に来て建物を建てていく中、肝要なのは1つの業者から次の業者へのバトンタッチがスムーズに行われることであり、同時にそれが安全面でのポイントにもなります。自分達がスムーズに仕事ができるのは、前の人達がきちんとしてくれたから。自分達がうまくいったら、次の人達もうまくいくように工夫しようということで、今やっています。また月に1回、現場から江古田駅までの道路の目立ったゴミを拾うという「クリーンアップ運動」も行っています。

福井 さすが武蔵野を建てて下さっ

ている大林組、「和」の精神と3P主義の実践ですね(笑)。ウチの学生が戻ったら「道が汚くなった」と言われないうにしくは(笑)。現場と言え、学園の希望もあり、今回ユニークな仮囲い塀を設置しています。

安藤 建築工事現場の仮囲いといえば素っ気ない壁が一般的ですが、今回はせっかく描いた色々なCGパース(完成予想図)を利用して、「出来上がったらかういふ風になります」と近隣様にこの段階から分かって頂けるように工夫を凝らしてみました。これまでにない楽しいアイデアですし、社内でも評判が良いです。今後は他の現場でもやってみたいと思っています。

福井 銀座・渋谷等で見られるようなキラキラした商業的な広告と違い、清潔感があって爽やかなデザインですね。設計側からみた現場はいかがでしょう。

山本 今回、施工現場はかなり苦労したと思います。住宅市街地で、これだけの建物密度、建築資材の仮置き場もほとんど取れず、動線にも安全にも音にも配慮しないといけない——そういう意味で、本当に施工計画的にも超難関プロジェクトだったと言えるのではないのでしょうか。

福井 先日の施工現場のバーベキュー大会で、普段お会いすることのない数百人の現場の皆様のお顔を同時に拝見し、毎日これだけ多くの方々(最盛期には約500人)が集まってキャンパスを造っている事を改めて実感しました。設計や施工の会議で週に1~2回現場を訪れていますが、日々全貌が明らかになってくる様子を目の当たりにすると、数年来のプロジェクトでの苦労と、これからの未来への希望で、熱いものが込み上げてきます。《伝統と先進が響きあう未来へ》——完成が本当に楽しみです。本日は長時間、有難うございました。



今井幸弘 Yukihiko Imai

株式会社大林組 東京本店
武蔵野音楽大学江古田工事事務所 所長



2017年度より 新しい教育体制が始まります 学科の再編・統合 & 魅力ある新カリキュラム

本学では、新たな時代の要請に応え教育・研究の一層の充実向上を図るため、本誌座談会にもあるような最新の施設・設備を備えた江古田新キャンパスの建設に併せ、2017(平成29)年度より、これまでの7学科を「演奏学科」と「音楽総合学科」の2学科に再編・統合する新たな教育体制をスタートします。演奏学科は器楽(有鍵楽器・管楽器・打楽器・弦楽器の各専修)、声楽、ヴィルトゥオーゾの3つのコースで構成され、音楽総合学科は作曲、音楽学、音楽教育、アートマネジメントの4つのコースで構成されます。

また、新学科の開設に伴い学年制の見直しを行い、従来の通年制から各年度を2つの学期に分けて、それぞれの学期ごとに単位を与える「セメスター制」に変更します。これによりセメスターごとに履修し完結する授業科目が増えるため、カリキュラムをより柔軟に組み立てることができるようになります。さらに今回の改編では、各コースそれぞれの専門性を高める科目と、コースを越えて横断的に履修できる多彩な「自由科目」を設定し、演奏家、音楽指導者、さらには音楽に係わる幅広い分野で活躍できる

人材の育成を目指します。学修に際しては「アクティブラーニング」を積極的に取り入れ、学生が主体的に目標・課題を設定して授業に参画する科目を増やし、教員と学生同士が、課題発見・解決のためのディスカッションなどをおして、授業を創り上げていきます。加えて、キャリア教育として1・2年次の必修科目に「キャリアデザイン(導入編)・(展開編)」を開講し、本学の学生として必要な自覚とモラル、社会に出てから必要な各種のスキルやコミュニケーション能力等を培い、卒業後の夢の実現に向け充実したサポートを行います。

* * *

演奏学科では、各コースにおいて学生個々の能力や個性に合わせ、演奏経験豊かな国内外の著名な演奏家、教員、現役の一流プレーヤーなどの優れた指導者による密度の濃い個人レッスンをとおして、学生一人ひとりが高度な専門性と表現力を修得することができます。また、日々の学修の成果は、学外や新設される3つの学内のホールでの



図書館完成予想 CG



新設のブラームスホール完成予想 CG

オーケストラ、合唱、ウィンドアンサンブルの定期公演やオペラ公演、数々のアンサンブルの授業発表、その他ステージでの多くの演奏体験をとおして実感できます。さらに国内外への演奏旅行やプロの団体と共演する機会もあり、学生はこのように様々な経験を重ねることにより演奏技術を磨いていきます。

* * *

また、音楽総合学科では、各コースに根ざした伝統的な基礎教育と専門教育、さらには現代社会において発達著しいテクノロジーの手法を融合させた先進的な教育も行います。特にこの学科の大きな特色として、新しい学びのシステムを自ら選ぶことができます。それはオープンメジャー方式とフィックスメジャー方式と呼びますが、オープンメジャー方式の考え方は次のとおりです。

開設コース	1年次	2年次～4年次
作曲	1年次は自己の適性や興味・関心を確認する期間とし、専攻コースは決定せず、音楽教養を幅広く身につける。	2年進級時に、専攻するコースを選択し、それぞれの専門知識・技能を身につける。
音楽学		
音楽教育		
アートマネジメント		

また、フィックスメジャー方式は、初年次から専攻コー

スを選択します。

開設コース	1年次～4年次
作曲	1年次から、確信をもって専攻するコースを選択し、それぞれの専門知識・技能を身につける。
音楽学	
音楽教育	
アートマネジメント	

さらにこの学科では、自分の選択したコースの科目だけではなく、他のコースで開講している選択科目も自由に履修することができます。このような取り組みをとおして、専門を超えた幅広い音楽教養も身につけることができます。

* * *

資格の取得については、これまで一部の学科において教員免許状や学芸員の資格取得に制限がありましたが、今回の学科再編・統合に併せ平成29年度の入学生から、全ての学科やコースにおいて所定の課程を修め必要な単位を取得すれば、教員免許状(中学校教諭一種免許状〈音楽〉・高等学校教諭一種免許状〈音楽〉)と学芸員の両方の資格を取得することができます。また他大学との提携により、本学在学中に小学校教諭二種免許状を取得できる道も開かれています。

音楽の万華鏡 36

ゴヤの絵画から生まれた音楽

2016年に没後100年を迎えた音楽家の一人が、スペインのカタロニア地方出身のピアニストで作曲家エンリケ・グラナドス(1867-1916)である。「私は音楽家ではなく芸術家である」と自ら語るグラナドスの才能は多面的であり、文章が達者で、画才もあった。彼が手紙で「私はゴヤの心とパレットに惚れた」と記しているように、スペインのサラゴサ出身の宮廷画家で版画家フランシスコ・デ・ゴヤ(1746-1828)の描き出す世界に強い憧れを抱き、ゴヤの絵画を数点所持していた。ゴヤがタペストリーの原画(カルトン)や油絵、版画や素描に好んで描いたのは、18世紀末のマドリードの下町から現れ、その時代の流行となった女たち(マハ)と伊達男たち(マホ)の世界であった。その世界の反映が、グラナドスの最高傑作と

言われるピアノ組曲《ゴイエスカス》、つまり「ゴヤ風の場面集」である。「恋するマハとマホ」という副題を持つこの曲集には、全体を通してマホとマハの愛と死を描いたストーリーがあり、作曲者のロマンティズムとスペイン人らしい民族的傾向が融合されている。このピアノ組曲の第1集4曲は1911年にバルセロナで、翌年には第2集2曲を含めた全6曲がマドリードで作曲家自身によって初演された。さらに1913年には《エル・ペレレ》が追加され、自身の自動ピアノ録音にもピアノ組曲と共に収められている。

このゴヤの絵は、グラナドスが第7曲のアイデアを得たカルトン『エル・ペレレ』(1791-92制作：プラド美術館所蔵)である。ここには、集まった数人のマハ達が、1枚の大きな毛布の端を両手に持ち、毛布の中心に藁でできた等身大の男の人形(ペレレ)を乗せ、空中へ跳ね上げながら遊ぶスペインに伝統的な遊びが描かれている。曲では華やかな序奏に続いて、人形が高く跳ね上げられる様子を表わした軽快なリズムの主題が現れ、何度



も繰り返されながら変奏され、発展していく。このピアノ組曲は、パリのオペラ座支配人の勧めで後にオペラに改作されたが、第7曲《エル・ペレレ》はその冒頭部分で使われている。

寺本まり子(本学音楽学教授)



多彩な構成で魅了したウィンドアンサンブル定期演奏会

武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル演奏会が、指揮者に2012年以來2度目の着任となるリチャード・メイン教授を迎えて、7月11日、13日に福岡、浜松の両市において、また15日に、東京芸術劇場コンサートホールで開催されました(表紙写真)。

プログラムは、J.ウィリアムズ：

「ニューイングランド讃歌」で華やかに始まり、A.コーブランド：《アパラチアの春》より、L.バーンスタイン：キャンディード序曲、P.スパーク：エンジェルズ・ゲートの日の出、J.ジル：リフテン・ウエド、本学卒業生の八木澤教司：太陽への讃歌—大地の鼓動(2016年改作版・初演)など全

9曲に、全日本吹奏楽コンクールの課題曲を盛り込んだ多彩な構成でした。学生たちは、メイン教授の指導のもと丁寧に作品を作り上げ、柔らかく深みのあるハーモニー、金管楽器の迫力あるサウンドやパーカッションの軽快なリズムで聴衆を魅了し、各会場で盛大な拍手が送られました。

リストとバッハを堪能 ケマル・ゲキチ ピアノ・リサイタル

世界的なピアニスト、ケマル・ゲキチ本学客員教授のピアノ・リサイタルが、7月4日、入間キャンパス バッハザールで開催されました。

「超絶技巧練習曲集と平均律クラヴィア曲集」とタイトルをつけられた今回のリサイタルは、リストとバッ

ハの作品を交互に演奏する独創的なプログラミング。ゲキチ教授の興味深い解釈が、卓越したテクニックと豊かな音色で表現され、詰め掛けた多くの聴衆から賞賛の声が聞かれました。



レインボウ21 サントリーホールデビューコンサート2016

次代を担う音楽家や音楽業界を目指す学生たちが、キャリアを築く出発点となる、サントリーホール主催「レインボウ21サントリーホールデビューコンサート」。学生自ら企画し、全ての公演制作を行う演奏会として高い注目を集めています。本年は5大学10企画の応募より、武蔵野音大プロデュース「西洋音楽奇譚～異文化の衝撃と憧れ

～」が採用され、去る6月7日、サントリーホール ブルーローズで開催されました。

音楽学学科の学生が中心となり企画・立案、「日本と西洋」の異文化の出会いを様々な視点から考察し、日本の音楽や絵画などに触発されたドビュッシー、ストラヴィンスキー、ルルー、ブッチェニなどの作品を演奏。企画・



出演した学生たちの真摯な取り組みは、来場者から高い評価を得ました。

三音楽教室合同夏期ミュージックキャンプ!

武蔵野音楽大学附属音楽教室の夏の恒例行事「ミュージックキャンプ」が8月上旬に本学園の施設「軽井沢高原研修センター」で開催されました。今年は、江古田・入間・多摩3つの音楽教室合同で行われ、賑やかで活気のある3日間となりました。

キャンプでは、先生方の指導のもと、初めて会う他の教室の仲間たちと室内楽・2台ピアノ・連弾・弦楽合奏・合唱等の練習に熱心に取り組み、2日目夜のコンサートに臨みました。

生徒たちは、ハレの場で緊張しながらも練習の成果を存分に発揮し、アンサンブルの楽しさを実感する有意義なコンサートとなりました。

期間中、参加した小学3年生から高校3年生までの生徒たちは、3つの教室混合の班で一人ひとりが係を担い、協力し合って行動します。皆でおいしい食事やおやつを囲み、花火に沸き、ゲームで親睦を深め、最終日には地元で有名なジャムの専門店に出かけるなど、音楽以外にも楽しいこ



とが満載でした。「また来年も来たいな!」と笑顔の生徒たち…、思い出に残るミュージックキャンプとなったことでしょう。



武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金 ご寄附をいただいた方々

学校法人武蔵野音楽学園では、寄附金に対する税額控除制度の恩典が与えられたことに鑑み、教育環境整備基金、福井直秋記念奨学基金並びに演奏活動特別基金の拡充を目的とする寄附金を募集しましたところ、下記の方々よりご寄附をいただきました。ここにご芳名を掲載し、深く感謝の意を表します。

学校法人 武蔵野音楽学園

※ご芳名(五十音順)は、平成28年5月21日から7月31日までにご寄附いただいた方々です。それ以降の方々は、次号にて掲載させていただきます。また勝手ながら掲載区分は当方で決めさせていただきました。何とぞご了承ください。

※本学ウェブサイトからも、ご寄附いただけるようになりました。クレジットカード決済により簡単にお手続きができます。是非ご利用ください。

【同窓生】 浅間由美様 足立さつき様 安部さつき様 安藤理香子様 池川香の子様 一ノ瀬真潮様 伊藤菊子様 猪瀬奈緒子様 岩井正子様 岩佐未由美様 打越孝裕様 大嶋早苗様 大山喬子様 岡田睦子様 小田英二様 小野貴史様 小畑真理子様 笥美代子様 金子泰三様 金本美恵子様 鴨谷美夏代様 川井淳子様 川崎盛徳様 川里玲子様 川島陽子様 川原宣子様 菊地蝶子様 杵渕浩子様 工藤淳子様 久保田洋子様 佐藤節子様 重松晃子様 清水由喜子様 高橋利子様 高橋百合子様 巽薫枝様 館野美穂様 田中暁子様 田中美恵様 田辺伸子様 谷脇ヒロ様 筑波玲子様 斗ヶ澤礼子様 豊田あい子様 永田伸子様 中塚英一様 中野久賀子様 中村英里可様 中村俊輔様 波多野美摩様 浜口和子様 藤田令子様 藤森照子様 古市紀子様 細貝則子様 本庄秀子様 三須紀子様 参木京子様 宮下悠紀子様 宮森ひろみ様 本柳ひろみ様 森 亜紀子様 森本晶子様 森吉郁子様 矢島裕美子様 山口弘子様 山本慶子様 山本せい子様 山本千晶様 横山千代子様 横山駿雄様 アンサンブルルヴォワール様 同窓会沖縄県支部様 同窓会兵庫県支部様 同窓会北海道東支部様 同窓会横浜むさしの会様

【在学生・同ご父母】 明石邦彦様 池田昌孝様 伊東立雄様 江頭直樹様 太田節雄様 大谷隆典様 岡部行伸様 後藤高明様 塩原規男様 志村磨実様 所山浩司様 玉置典代様 冨田義人様 中峯昌明様 野町順治様 平竹雅人様 本木正様 本田晃真様 本田敏彦様 宮下 茂様 宮西一雅様 横山三郎様 吉成 満様

【役員・教職員・一般・他】 池田京子様 上原正子様 岡崎耕治様 金倉えりか様 金倉英男様 金子 靖様 加納マリ様 小林五郎様 佐々木亜紀様 重松 聡様 重松万里子様 清水吉六様 平良栄一様 高田千絵様 耕 修二様 田代慎之介様 中川俊宏様 奈良滯子様 久富綏子様 日高正枝様 丸山千春様 三村隆文様 八木原宗夫様 山越正秀様 (他に匿名を希望される方30名)

栄冠おめでとう！(コンクール入賞者等)

(順不同、敬称略、経歴は受賞時のもの)

- アルゴヴィア・フィルハーモニック(スイス)に
コントラバス奏者として入団(平成28年4月) 小杉幸市(平成12年大学コントラバス専攻卒業)
- 第2回黒海オペラ指揮コンクール(ルーマニア) 第2位入賞 糸原裕介(平成16年大学声楽専攻卒業、本大学院修了)
- 一般財団法人守谷育英会2016年度奨学生に採用される 大竹千寛(大学2年ピアノ専攻)、●第19回日仏声楽コンクール 第1位入賞 齋藤青麗(平成13年大学音楽教育学科声楽専攻卒業)、●第31回練馬区新人演奏会出演者選考オーディション 声楽部門 最優秀賞受賞 黒田詩織(平成23年大学声楽専攻卒業、本大学院修了)、木管楽器部門 優秀賞受賞 金田直道(大学4年ファゴット専攻)、●第12回ルーマニア国際音楽コンクール 打楽器部門 第1位入賞、オーディエンス賞受賞 森永彰(平成28年大学打楽器専攻卒業、本大学院1年)、●第19回「長江杯」国際音楽コンクール 打楽器部門 一般の部A 第1位入賞、審査委員長賞受賞 古家啓史(平成28年大学マリンバ専攻卒業、附属高校卒業)、ピアノ部門 一般の部A 第2位入賞 牧田朋美(平成17年大学ピアノ専攻卒業、本大学院修了)、第3位入賞 高淵鈴子(平成27年大学ピアノ専攻卒業、本大学院2年)、大学の部 第2位入賞 在原優果(大学2年ピアノ専攻)、第3位入賞 新井邦広(大学1年ピアノ専攻)、●第3回「春の声」声楽コンクール プロフェッショナル部門 第2位入賞 中森美紀(平成13年大学声楽専攻卒業)

※上記の他多数。大学ウェブサイトをご覧ください。

着任外国人教授紹介 (平成28年度後期)



アルヌルフ・フォン・アルニム Arnulf von Arnim (ピアノ/ドイツ)

フランクフルト音楽大学に学び、パリにてピエール・サンカンに師事。マリア・カナルス及びヴィオットーニ国際コンクール第1位、ブゾーニ国際コンクール第3位。国際シュベルトコンクール音楽監督をはじめ、数々の国際コンクールにて審査員を務める。TV出演、レコーディングも数多く、近年ではシューマンの未公開曲「2台ピアノのための作品」「4手のためのピアノ作品」を初収録した。ヨーロッパ、アメリカ、ロシアの各地で演奏活動及び講習会を行う。現在、エッセン・フォルクヴァング音楽大学教授。



ルドルフ・ピールマイヤー Rudolf Piehlmaier (管弦楽団指揮/ドイツ)

ミュンヘン音楽・演劇大学にて指揮をヨゼフ・ツィルヒ、ヘルマン・ミヒャエルの下で研鑽を積み、レナード・バーンスタイン及びセルジュ・チェリビダッケの指導を仰ぐ。レーゲンスブルク劇場、スイス・ザンクト・ガレン劇場第一指揮者を経て、アウグスブルク・フィルハーモニー管弦楽団音楽監督、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団第一常任客演指揮者を務める。その他、ベルリン・ドイツ歌劇場、モーツァルテウム管弦楽団などに多数客演。1994年、バイエルン州振興賞受賞。



レイ・E. クレーマー
Ray E. Cramer
(ウインドアンサンブル指揮
/アメリカ)

アメリカで高く評価されるインディアナ大学音楽学部で、2005年まで吹奏楽学科主任教授並びにバンドディレクターとして活躍し、また2009年まで著名なミッドウェスト・クリニック会長の要職も務めた。これまで全米吹奏楽指導者協会会長をはじめ数多くの吹奏楽協会の要職を歴任する他、インディアナ大学最優秀教授賞、Phi Beta Mu 国際優秀賞等多くの賞を受賞。2012年には権威あるNational Band Association Hall of Fame of Distinguished Conductors (吹奏楽の優れた指揮者の栄誉殿堂)に選ばれ、全米、日本等で客員指揮者、指導者、審査員として広く活躍している。武蔵野音楽大学名誉教授。

平成28年度 10月～12月 演奏会のお知らせ

入間市「市民コンサート」 武蔵野音楽大学管弦楽団演奏会

10月15日(土) 15:30 入間市市民会館 無料(全席自由・要入場整理券)
 主催・お問合せ=入間市立中央公民館 TEL.04-2964-2413 ※入間市立中央公民館へ直接お問い合わせください。
 指揮=カールマン・ベルケシュ ホルン独奏=阿部華苗(大学4年、本学学生オーディション合格者)
 曲目=ワーグナー:《ニュルンベルクのマイスタージンガー》より 第1幕への前奏曲、R.シュトラウス:ホルン協奏曲 第1番 変ホ長調 Op.11
 プラームス:交響曲 第1番 ハ短調 Op.68

武蔵野音楽大学シンフォニック ウィンド オーケストラ演奏会

11月5日(土) 15:30 バッハザール(入間) ¥1,000(全席自由)
 指揮=前田 淳
 曲目=バーシケッティ:ページェント、グレインジャー:《戦士たち》～想像上のバレエ音楽～、バーンスタイン:キャンディード序曲 他

アルヌルフ・フォン・アルニム ピアノ・リサイタル

11月9日(水) 18:00 バッハザール(入間) ¥1,000(全席自由)
 曲目=ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ 第16番 ト長調 Op.31-1、シューベルト:ピアノ・ソナタ 第17番 二長調 D.850、リスト:ピアノ・ソナタ ロ短調

武蔵野音楽大学室内合唱団演奏会

11月14日(日) 19:00 練馬文化センター大ホール ¥1,000(全席自由)
 指揮=栗山文昭、片山みゆき 曲目=林 光:音楽劇《かしばやしの夜》-舞台のためのカーニバル- 他

ニュー・ストリーム・コンサート29～ヴィルトウオーソ学科演奏会～

11月17日(水) 19:00 トップホール ¥1,500(全席自由)
 出演=三谷真珠子(Hrp.)、菅田小夏(Cl.)、市村ひかり(Pf.)、林 麗子(Pf.)、清水智紗子(Sop.)、坂口秀臣(Pf.)

武蔵野音楽大学管弦楽団演奏会

12月3日(土) 16:00 バッハザール(入間) 一般¥1,500/学生¥1,000(全席自由)
 12月5日(日) 19:00 東京芸術劇場 コンサートホール ¥1,500(全席指定)
 指揮=ルドルフ・ピールマイヤー ナビゲーター=神崎ゆう子 曲目=ムソルグスキー(ラヴェル編):組曲《展覧会の絵》 他

武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル演奏会

12月14日(水) 18:30 東京芸術劇場 コンサートホール ¥1,500(全席指定)
 指揮=レイ・E. クレマー
 曲目=バーンスタイン:演奏会用序曲《スラヴァ!》、レスピーギ:交響詩《ローマの松》より《アッピア街道の松》、ドゥーリイ:マスクとマシーン(日本初演) 他

武蔵野音楽大学合唱団演奏会

12月19日(日) 19:00 東京カテドラル 聖マリア大聖堂 ¥1,500(全席自由)
 指揮=栗山文昭、片山みゆき、横山琢哉
 曲目=ブルックナー:ミサ曲 第2番 ホ短調、グレゴリオ聖歌:アドヴェント～クリスマスの聖歌、C.T.パッヘルベル:マニフィカト 他

お問合せ ● 武蔵野音楽大学演奏部 TEL.04-2932-3108

※やむを得ない事情により、出演者・曲目等を変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※チケットは武蔵野音楽大学ウェブサイト <http://www.musashino-music.ac.jp/> でもご予約ができます。

武蔵野音楽大学・武蔵野音楽大学附属高等学校 平成28年度 冬期講習会のお知らせ

講習会名	実施期間	申込受付期間	会場
音楽大学受験講習会	平成28年12月23日(金・祝)～26日(月)	平成28年11月28日(月)～12月12日(月)	武蔵野音楽大学 入間キャンパス
高校音楽科受験講習会	平成28年12月24日(土)～26日(月)	平成28年11月28日(月)～12月12日(月)	

講習会要項の請求は、武蔵野音楽大学企画部広報課(TEL.04-2936-9737)または大学ウェブサイトにてお申し込み下さい。(要項は無料、郵送料は学園が負担します) 大学ウェブサイト <http://www.musashino-music.ac.jp/>

平成28年度 武蔵野音楽大学・武蔵野音楽大学附属高等学校 オープンキャンパス・学校説明会

本学の教育内容、入学試験、キャンパスライフ、進路などをご説明、ご希望の方はワンポイントレッスンが受けられます。さらに大学のガイダンスでは、平成29年度よりスタートする江古田新キャンパスと新たなカリキュラムについてもご紹介いたします。お申し込み等、詳細はウェブサイトをご覧ください。

【お問合せ】武蔵野音楽大学 入学センター TEL.04-2936-9844

日付	種別	開催地
10月30日(土)	学校説明会	青森県青森市★「ヤマハ特約楽器店(株)東京堂 青森店」
		新潟県新潟市★「ヤマハミュージックリテイリング新潟店」
		千葉県千葉市「ヤマハミュージックリテイリング千葉店 千葉センター」
11月13日(土)	学校説明会	鹿児島県鹿児島市「東郷音楽学院」
12月11日(土)	オープンキャンパス	武蔵野音楽大学 入間キャンパス

★大学のみ開催(高等学校の説明会は実施しません)

平成29年度 入学試験要項請求について

武蔵野音楽大学の各入学試験要項は、入間キャンパスで取り扱っています。

郵送をご希望の方には無料でお送りいたしますので、本大学ウェブサイトの「資料請求フォーム」からご請求ください。お電話でのお申し込みは、氏名、住所、電話番号、および希望される附属高校、大学1年次、大学3年次編・転入、大学院、別科の別をお知らせください。

なお、冬期受験講習会を受講の方には、講習期間中に配付します。

【請求先】武蔵野音楽大学企画部広報課
〒358-8521 埼玉県入間市中神728

TEL.04-2936-9737

大学ウェブサイト

<http://www.musashino-music.ac.jp/>

革胡

中国 全長124cm

どことなくチェロを彷彿とさせる姿でありながら、蛇皮と透かし彫り紋様には確かに中国らしさを感じる。革胡は、中国近代化の中で考案された比較的新しい改良楽器である。

20世紀初頭、西洋音楽の素養を身につけた中国の音楽家たちによって、徐々に西洋音楽の受容が広がっていった。中国最初の音楽学校が設立され、和声・音楽理論のほか、ピアノ・管弦などの西洋楽器が学べる環境が整えられた。そして、大都市では近代的な劇場が作られ、中国の様々な伝統楽器で構成された西洋オーケストラ風の民族楽器オーケストラが誕生した。この大規模な合奏形態によって、音域の拡大や音量の増大が求められるようになり、様々な楽器の改良が積極的に行われることとなった。弦の素材を絹から金属へ変えて音量の増大を図り、楽器の規格が定められた。

このような中で、1950年代、西洋楽器にみられる同属ファミリー楽器という概念のもと、高音楽器から低音楽器まで大きさの異なる同種楽器が多数創作された。ヴァイオリン属はすべて二胡属に置き換えられて、ヴァイオリンの代わりに高胡と二胡、ヴィオラの代わりに低音二胡や中胡が作られ、チェロに相当する楽器



として革胡が誕生したのである。さらにコントラバスに相当する楽器として低音革胡も作られた。

二胡など多くの中国弦楽器に見られるように、革胡の共鳴胴には蛇皮が用いられているが、チェロのように弦の張力が強くなると皮面では耐えられないため、あえて正面を紫檀にして皮を側面にしたのではないかと考えられる。音は胴内部の音柱を伝わって皮面に共鳴するというしくみである。チェロのようにエンドピンで固定して、チェロの弓で演奏する。

(武蔵野音楽大学楽器博物館所蔵)

大学機能の一時移転のお知らせ

武蔵野音楽大学は、現在進行中の「武蔵野音楽学園江古田新キャンパスプロジェクト」に伴う新築工事のために、平成29年3月まで大学の機能を入間キャンパスに移転しています。期間中は何かとご迷惑、ご不便をおかけいたしますが、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

❖目次❖

- ヨーロッパに里帰りした印象派の絵画 1
熊澤 弘
- 江古田新キャンパスプロジェクト REPORT ⑩ 5
特別座談会 第2部「江古田新キャンパス実現までの道のり」
- 2017年度より新しい教育体制が始まります 10
学科の再編・統合&魅力ある新カリキュラム
- 音楽の万華鏡 11
ゴヤの絵画から生まれた音楽 寺本まり子
- MUSASHINO NEWS 12
 - ❖ 多彩な構成で魅了したウィンドアンサンブル定期演奏会
 - ❖ リストとバッハを堪能 ケマル・ゲキチ ピアノ・リサイタル
 - ❖ レインボウ21 サントリーホールデビューコンサート2016
 - ❖ 三音楽教室合同夏期ミュージックキャンプ!
 - ❖ 武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金 ご寄附をいただいた方々
 - ❖ 栄冠おめでとう! (コンクール入賞者等)
 - ❖ 着任外国人教授紹介 (平成28年度後期)
 - ❖ 平成28年度10月~12月 演奏会のお知らせ
 - ❖ 武蔵野音楽大学・武蔵野音楽大学附属高等学校 平成28年度 冬期講習会のお知らせ
 - ❖ 平成28年度 武蔵野音楽大学・武蔵野音楽大学附属高等学校 オープンキャンパス・学校説明会
 - ❖ 平成29年度 入学試験要項請求について

武蔵野音楽大学大学院
博士前期課程・博士後期課程

武蔵野音楽大学
武蔵野音楽大学別科
武蔵野音楽大学附属高等学校
武蔵野音楽大学第一幼稚園
武蔵野音楽大学第二幼稚園
武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園
附属音楽教室 江古田・入間・多摩

❖発行❖

学校法人 武蔵野音楽学園

入間キャンパス ●〒358-8521 埼玉県入間市中神728
TEL.04-2932-2111 (代表)

江古田キャンパス ●〒176-8521 東京都練馬区羽沢1丁目13-1
TEL.03-3992-1121 (代表)

バルナソス多摩 ●〒206-0033 東京都多摩市落合5-7-1
TEL.042-389-0711 (代表)

<http://www.musashino-music.ac.jp/>

2016年10月1日発行 通巻第119号